

中学校・高等学校 防災教育副教材

- 生徒たちが自然災害について正しく認識し、ハザードマップの活用や経済的な備え、自助と共助など防災の基本的な知識について理解を深めることができるよう作成した教材です。
- 本教材は、**生徒用の「ワークシート」と教師用の「手引き」**（解答・解説、参考資料、授業展開例など）からなります。
- 本教材は、1時限(約50分)で完結する内容です。

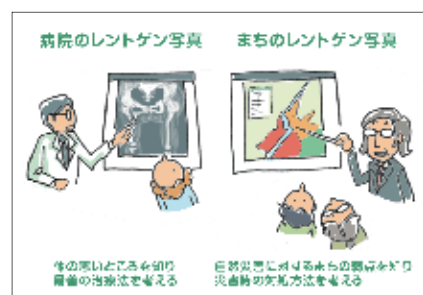
【ワークシートの学習内容】

<p>1. 中学生向け</p> <p>(1) 生徒用ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな自然災害 ●自然災害への備え ●ハザードマップを活用しよう ●風水害に備えよう ●地震に備えよう ●家族で防災会議をしよう ●自然災害への経済的な備えなど <p>(2) 教師用手引き</p>	
<p>1. 高校生向け</p> <p>(1) 生徒用ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然災害を教訓に ●災害への備え ●ハザードマップを活用しよう ●帰宅ルートを考えよう ●家の中の安全対策をしよう ●家族で防災会議をしよう ●飲料水や食料品を備蓄しよう ●自然災害リスクへの対処法 ●自助・共助・公助の連携 など <p>(2) 教師用手引き</p>	

中学校・高等学校

eラーニング「動画で学ぼう! ハザードマップ」

- ハザードマップの活用を促進し、地域の自然災害を知り、防災・減災への意識を高めていただくために、そのヒントやアドバイスを取りまとめたeラーニングコンテンツです。
- ビデオクリップ(それぞれ3~5分程度)をご覧ください、確認クイズで理解を深めたうえで、地域のハザードマップを再確認することで、災害対策に役立てることができます。



【本ツールの概要】 <http://www.sonpo.or.jp/efforts/reduction/bousai/hm/>

第1章 自然災害とハザードマップ	ハザードマップは、「あなたを自然災害から守るためのまちのレントゲン写真」。ハザードマップの役割と、日本で発生しやすい主な自然災害について解説しています。
第2章 洪水ハザードマップの活用方法	洪水ハザードマップが教えてくれるのは、「水に浸かる範囲と最大の深さ」。洪水ハザードマップからわかること、洪水の際に注意すべき点などについて解説しています。
第3章 (1) 地震ハザードマップの活用方法	地震ハザードマップが教えてくれるのは、「その地域で起こりやすそうな地震の被害」。地震ハザードマップからわかること、地震の際に注意すべき点などについて解説しています。
第3章 (2) 津波ハザードマップの活用方法	津波ハザードマップに示された浸水予測区域は、あくまで予測上のもの。津波ハザードマップからわかること、津波の際に注意すべき点などについて解説しています。
第4章 ハザードマップを安全・防災に役立てるために	自分や地域で取り組む「回避」「軽減」「転嫁」「受容」という4つの対策について解説しています。

学校段階別

防災教育支援ツールのご紹介

～防災に関する知識があれば行動でき、行動できれば避難できる～

日本損害保険協会では、損害保険事業を通じて蓄積してきたノウハウを活かし、防災・防犯対策、交通安全対策等、幅広い活動を行っており、この一環として、子どもたちの発達段階に応じた各種防災教育支援ツールを提供しています。

近年では、ゲリラ豪雨や大雪など人命に関わるような災害が頻発しており、また首都直下地震や南海トラフ地震など大きな地震の発生も危惧されています。防災に関する知識があれば行動できます。行動できれば避難することができ、それが命を左右することも現実です。

ぜひ当協会の防災教育支援ツールをご活用ください。

日本損害保険協会が提供する学校段階別防災教育支援ツール(詳細は次のページをご覧ください)

学校段階	支援ツール名	概要
幼稚園、保育園 ・ 小学校低学年	防災教育用カードゲーム ぼうさいダック	安心・安全の「最初の第一歩」を、子どもたちが実際に身体を動かし、声を出して遊びながら学んでもらうためのカードゲームです。
小学校	安全教育プログラム ぼうさい探検隊	子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、身の回りの安心・安全を考えながらマップにまとめて発表する、実践的な安全教育プログラムです。
中学校 ・ 高等学校	防災教育副教材	自然災害によるリスクやその備えについて、生徒自身が「ワークシート」に記入し、その内容について教師が「手引き」を見ながら解説する教材です。
	eラーニング 動画で学ぼう! ハザードマップ	地域の自然災害リスクを知り、備えや対策を行っていただくためのヒント・アドバイスとして、ハザードマップの活用方法等について音声付動画で学習し、その内容をクイズ形式で確認するeラーニングです。

一般社団法人 **日本損害保険協会** 業務企画部 啓発・教育グループ

〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9

TEL:03-3255-1215 FAX:03-3255-1236 E-mail:consumer@sonpo.or.jp

幼稚園、保育園・小学校低学年

防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」

- B4サイズのカード12種類がセットになったゲーム教材です。



- カードの表面は災害の絵
(左図は地震を示す)
- カードの裏面は災害に備えてポーズをとる動物の絵
(左図は地震が起きた際、身体を丸めて頭を守るダックのポーズ)
- カードは全部で12種類。
表面の災害の絵を示しながら、裏面で描かれている正しいポーズを学んでもらう。

- 本教材は、子どもたちがさまざまな災害等に直面したときに、動物のイラストのポーズを思い出し、そのポーズをまねることで、被害を回避・軽減することを目的としています。
- 表面には地震や津波などの「危険」を示すイラストを、裏面には落下物から頭をかばうダックや俊足で高台に避難するチーターなどのイラストが描かれています。
- 防災や防犯、交通安全に関するもののほか、挨拶やマナーといった日常の習慣についても学習できます。

【「ぼうさいダック」カード一覧】



- 簡易なカードゲームのため、事前の準備はほぼ不要です。
- 1時限(45分)の中で完結することができます。
- 室内で実施できるので、天候等に左右されません。
(雨天時のレクリエーションとして活用いただくこともできます。)

小学校

安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」

- まちなか探検を通じて楽しみながら学ぶことで、身近な危険について自分たちで気づき、考えてもらう実践的安全教育プログラムです。

【プログラムの流れ】

① まちなか探検

子どもたちの視点でまちを探検して、防災・防犯・交通安全に関する様々な施設や設備を発見します。



② マップの作成

集めた情報や写真などを使って、模造紙や街区地図に、発見したこと、気づいたことなどを記入・整理してマップを作ります。



③ 作成したマップの発表

マップが出来上がったら、自分たちで発見したことや気づいた点を学校・団体や地域で発表することで、防災・防犯、交通安全への意識を高めます。



- 子どもたちが消防署や警察署、昔ながらの商店など、まちなかで地域の大人たちにインタビューすることで、自分のまちに関心を持つきっかけとなります。また、子どもたちの真剣な取り組みが地域の大人たちを動かし、結果として、地域コミュニティの強化や地域防災力の向上につながります。
※ぼうさい探検隊の取り組みでの気づきを行政に提言し、実際に危険箇所が改善された事例もあります。

小学生のぼうさい探検隊マップコンクール

- 日本損害保険協会では、文部科学省や内閣府(防災担当)、消防庁などの後援のもと、小学生を対象に、毎年、マップコンクールを実施しています。テーマは「防災」のほか、「防犯」や「交通安全」も応募の対象となります。
- 本プログラムの実施に必要なマニュアルおよび実施キット(模造紙、マジックペン、付箋、シールなど)については、無償で提供しています。

- まちなか探検での安全確保やマップ作りでのアドバイスなど、子どもたちのマップづくりをサポートするために、大学生や地域ボランティアの方々などを対象とした「ぼうさい探検隊リーダー養成講座」を実施し、講師を派遣しています。